

# ピーマンの需給動向

調査情報部

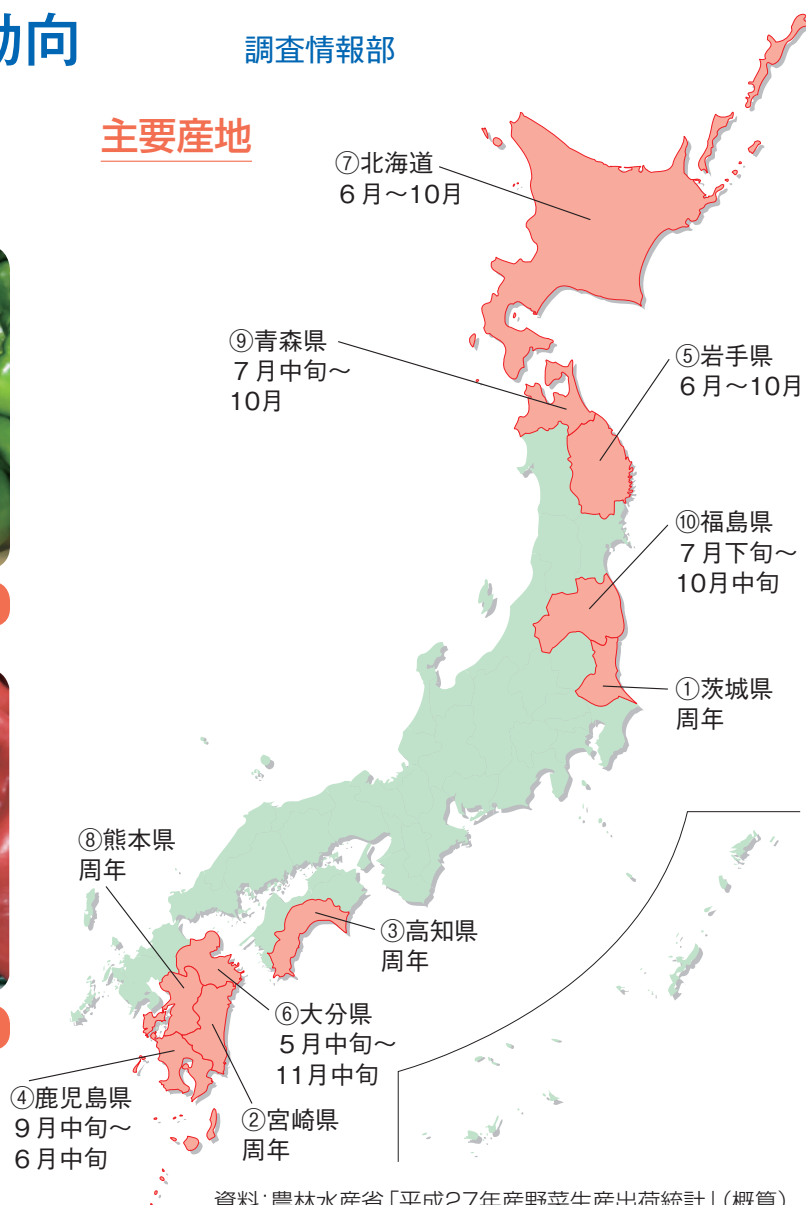
## 主要産地



ピーマン (岩手産)



カラーピーマン (高知産)



資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概算）  
注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

ピーマンは、ししとうがらしなどと同様に、とうがらしの一種である。とうがらしの原産地は中南米で、15世紀にコロンブスがスペインに持ち帰り、その後、香辛料として世界中に広まったとされている。現在食べられているようなピーマンは、明治時代の初めに、品種改良されたものが米国から伝わった。戦後の食生活の欧米化に伴い、親しまれるようになった野菜である。

現在、主流となっているのは、中型の薄肉で香りが少ないタイプ（薄肉中型種）であり、緑色の未熟果とともに、赤色に熟した赤ピーマンも注目されている。ほかにも、パプリカなどの厚肉大型種がある。

ピーマンの生育適温は22～30度で、高温を好む。そのため、かつては夏から秋を中心に出荷される野菜であったが、現在では施設栽培により周年供給されている。

## 作付面積・出荷量・単収の推移

平成27年の作付面積は、3270ヘクタール（前年比98.5%）と、前年よりわずかに減少している。

上位5県では、

- ・茨城県 535ヘクタール（同 99.3%）
- ・宮崎県 305ヘクタール（同 96.2%）
- ・岩手県 176ヘクタール（同 97.8%）
- ・鹿児島県 149ヘクタール（同100.0%）
- ・高知県 132ヘクタール（同 94.3%）

となっている。

27年の出荷量は、12万2800トン（前年比96.5%）と、前年よりやや減少した。

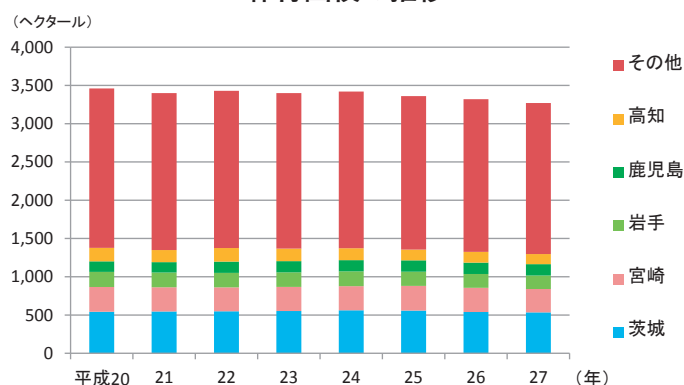
上位5県では、

- ・茨城県 3万 700トン（同95.9%）
- ・宮崎県 2万5400トン（同96.9%）
- ・高知県 1万2100トン（同92.4%）
- ・鹿児島県 1万 800トン（同97.3%）
- ・岩手県 6170トン（同97.6%）

となっている。

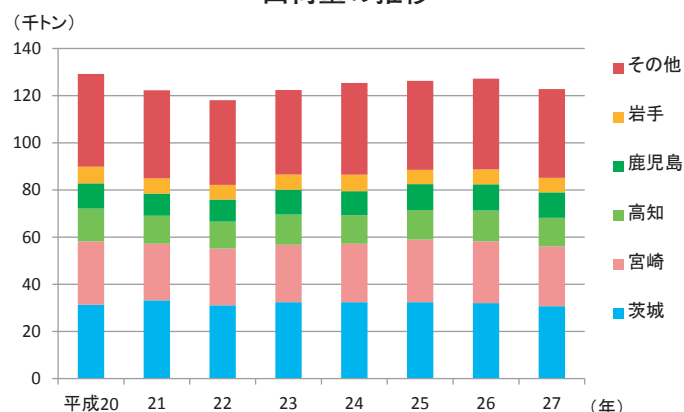
出荷量上位5県について、10アール当たりの収量を見ると、高知県の9.55トンが最も多く、次いで宮崎県の8.79トン、鹿児島県の7.99トンと続いている。その他の道県で多いのは、沖縄県（6.60トン）、北海道（6.08トン）であり、全国平均は4.29トンとなっている。

作付面積の推移



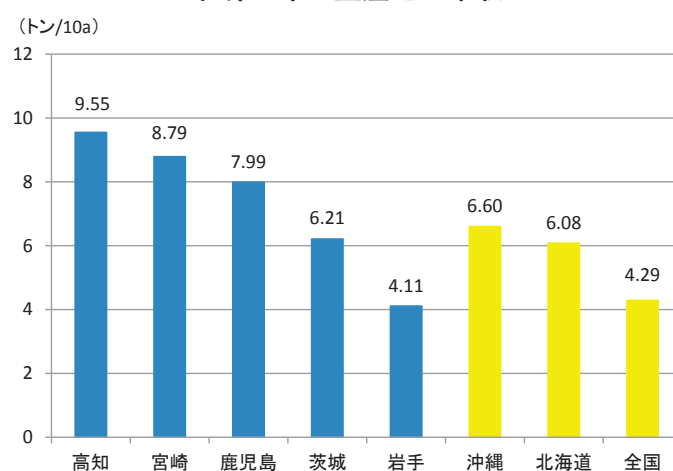
資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概算）

出荷量の推移



資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概算）

平成27年の主産地の単収



資料：農林水産省「平成27年産野菜生産出荷統計」（概算）

注：黄色は、出荷量上位5県以外で単収が多い2道県および全国平均。

## 作付けされている主な品種等

ピーマンは、大きさや形、色などのほかに、栽培特性や耐病性などの違いによって多くの品種が存在する。各産地では、それぞれの栽培条件に適した品種を選定し、その特性を生かせるように日常の管理を行っている。比較

的多くの産地で栽培されている京鈴、みおぎ、京ゆたかは、薄肉中型種である。

最近では、赤や黄色などのカラーピーマンのほかにも、特有の青臭い香りを抑え、甘味を追求したピーマンなども注目されている。

### 都道府県名 主な品種

茨城県 みおぎ、京鈴<sup>きょうすず</sup>

宮崎県 京鈴、宮崎グリーン、京ゆたか

高知県 トサヒメR、みおぎ、みはた2号、トサミドリ、はばたき3号、京鈴

鹿児島県<sup>すさなみ</sup> 鈴波

岩手県 京ひかり、京鈴、京ゆたか

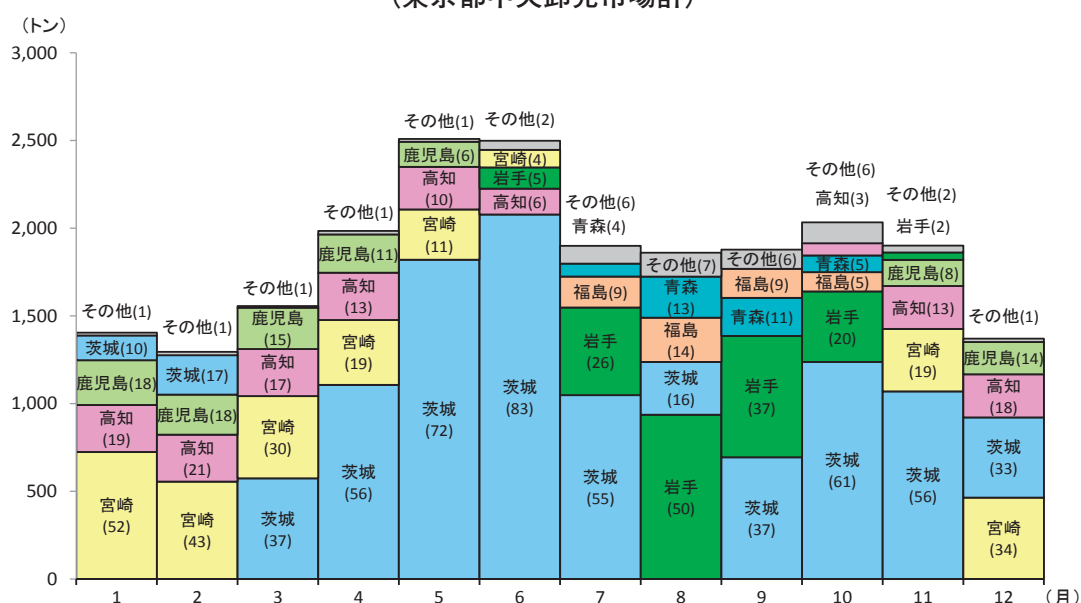
資料：農畜産業振興機構の関係者聞き取りによる。

## 東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成27年）を見ると、施設栽培技術の普及によって通年の栽培が可能となり、茨城産は年間を通じて入荷している。3月から7月、9月から11月までの入荷は茨城産が中心となって

いるが、7月から10月にかけては岩手産、福島産、青森産などの東北産も目立つ。また、11月から翌5月にかけては、宮崎産、高知産、鹿児島産などの西南暖地産が入荷している。

平成27年 ピーマンの月別入荷実績  
(東京都中央卸売市場計)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成27年東京都中央卸売市場年報）

注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成27年）を見ると、11月から翌6月にかけての入荷は、宮崎産、鹿児島産、高知産などの西南暖地産が中心となっている。7月から

10月までは、大分産、青森産などの入荷が多い。また、東京都中央卸売市場と比べ、兵庫産（7～9月）、北海道産（8～9月）の入荷が目立つ。

平成27年 ピーマンの月別入荷実績  
（大阪中央卸売市場計）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成27年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）

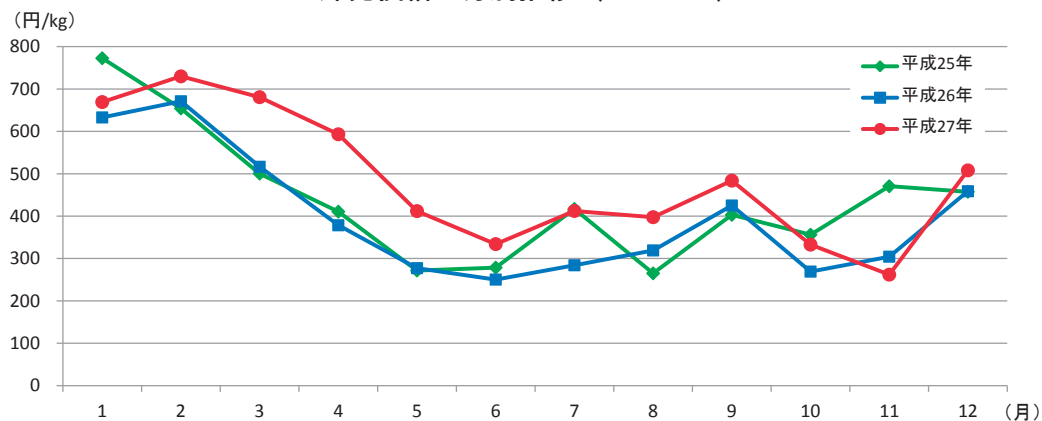
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

## 東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場の価格（平成27年）は、1キログラム当たり262～730円（年平均464円）の幅で推移している。総入荷量が増える3月から6月にかけては、価格は下げ

基調で推移する。入荷量が安定している7月から11月は価格も安定して推移し、総入荷量が減少する12月から2月の価格は上げ基調に転じる。

卸売価格の月別推移（ピーマン）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

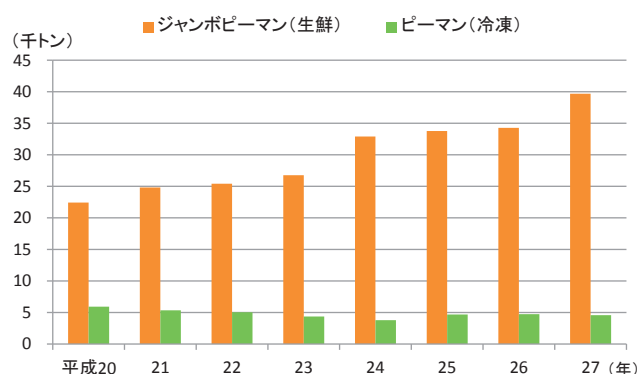
注：外国産も含む。

## 輸入量の推移

ピーマンの輸入の大部分は、厚肉大型種である生鮮ジャンボピーマン（パプリカ）が占めている。冷凍ピーマンは、ピザなどの冷凍食品向けに輸入されている。平成20年に2万2424トンであった生鮮ジャンボピーマンの輸入量は、その後、増加傾向で推移し、27年には約1.8倍の3万9679トンとなった。

27年の国別輸入量を見ると、生鮮ジャンボピーマンでは韓国が7割以上を占め、オランダ、ニュージーランドと続いている。冷凍ピーマンは、9割以上を中国が占めている。

## 輸入量の推移

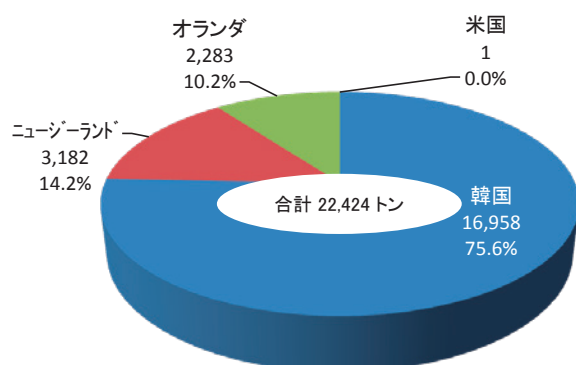


資料：ジャンボピーマン（生鮮）は農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）、ピーマン（冷凍）は農林水産省「植物防疫統計」

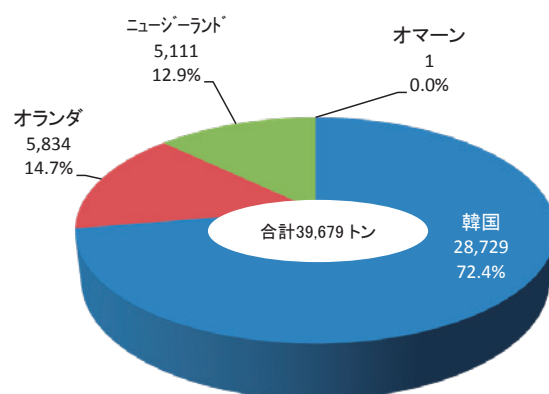
注：ピーマン（冷凍）は、検査数量の数値である。

## 国別輸入量

平成20年  
ジャンボピーマン（生鮮）

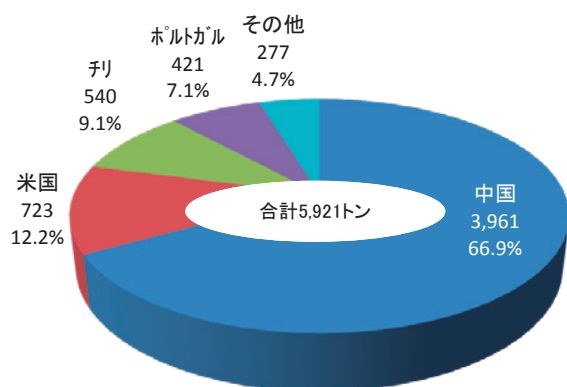


平成27年  
ジャンボピーマン（生鮮）

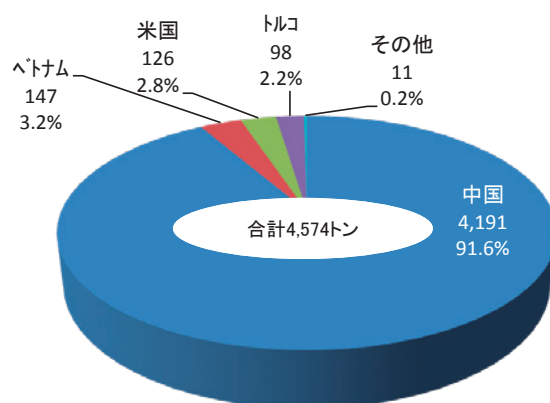


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

平成20年  
ピーマン（冷凍）



平成27年  
ピーマン（冷凍）



資料：農林水産省「植物防疫統計」

注：検査数量の数値である。

## 消費の動向

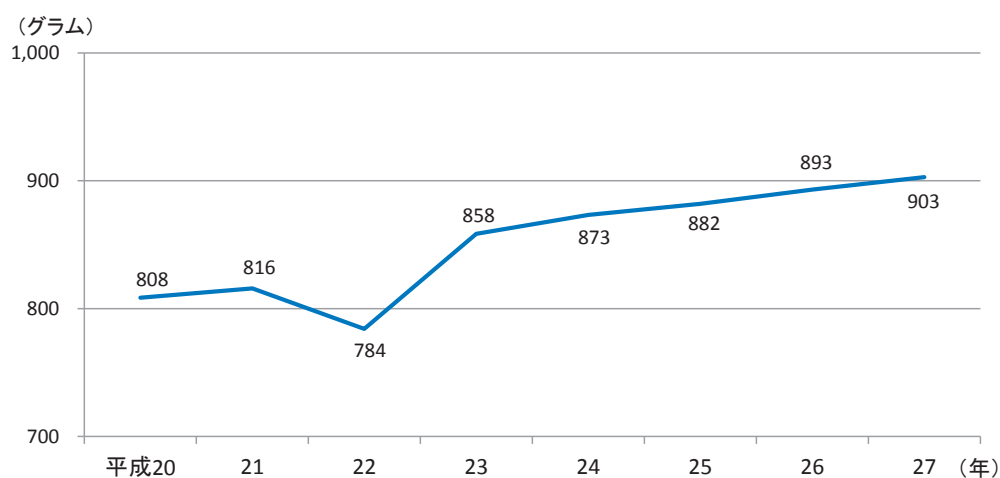
ピーマンは栄養豊富な野菜であり、手軽に調理できることやサラダにも適しているため、食卓に並ぶことが多い。1人当たり年間購入量を見ると、平成23年以降は増加傾向にあり、27年は900グラムを超えている。

ピーマンは、レモンの2倍、トマトの5倍のビタミンCを含み、中くらいの大きさのものの4個で1日の摂取量をとることができる。

そのほか、ビタミンAなどのビタミン類や食物繊維を豊富に含んでおり、加熱調理しても栄養価が損なわれることが少ない。また、熟した赤ピーマンの方が、緑色のピーマンより栄養に富んでいる。

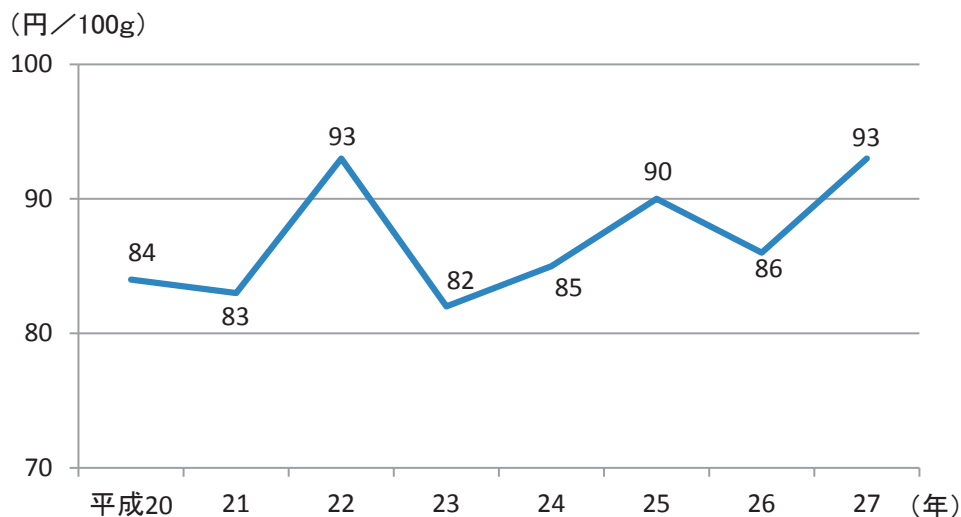
栄養豊富で彩り豊かなピーマンを、いろいろな料理で楽しみたいものである。

1人当たり年間購入量の推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「家計調査年報」）

小売価格（東京都区部）の動向



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「小売物価統計調査」）